

国内最大級のクラシック音楽の祭典

「東京・春・音楽祭2025」概要発表

開催期間:2025年3月14日[金]～4月20日[日]

春が訪れ^{はな}桜がひらいて 音楽が始まる 上野の森に

東京・春・音楽祭実行委員会（実行委員長：鈴木幸一）は、桜咲く春の上野を舞台にした国内最大級のクラシック音楽の祭典「東京・春・音楽祭2025」を、2025年3月14日（金）から4月20日（日）まで約40日間に亘り開催いたします。

文化の集積地・上野公園の各施設（東京文化会館、各美術館・博物館等）を拠点に、国内外一流アーティストによるオペラ、オーケストラ、室内楽、リサイタルなど、幅広いコンサートを多様な空間でお届けし春の訪れを彩ります。

「東京・春・音楽祭」は2005年に「東京のオペラの森」として始まり、2009年に現名称に改称、2024年に20回目の春を迎えました。21年目となる2025年、東京春祭の“顔”となってきた「ワーグナー・シリーズ」では、マレク・ヤノフスキ指揮／NHK交響楽団で、ワーグナーが手掛けた最期の大作《パルジファル》を上演します。ヤノフスキ&N響は「合唱の芸術シリーズ」でベートーヴェンの晩年の傑作《ミサ・ソレムニス》も東京オペラシンガーズと演奏。荘厳な調べが上野を満たします。

今年9月の《アッティラ》の熱演が記憶に新しいリッカルド・ムーティは、東京春祭オーケストラと共に《ローマの松》などイタリアを代表する作曲家たちの作品をお届けします。「プッチーニ・シリーズ」では、ボローニャ歌劇場音楽監督のオクサーナ・リーニフ指揮／読売日本交響楽団で《蝶々夫人》を。ジョナサン・ノットは音楽監督を務める東京交響楽団と、2025年に生誕200年を迎えるJ. シュトラウス2世《こうもり》で音楽祭を華やかに締めくくります。

また、2024年の音楽祭で円熟味溢れるベートーヴェン・チクルスを演奏した現代最高のピアニストルドルフ・ブッフビンダーや、気鋭の現代音楽集団アンサンブル・アンテルコンタンポランやクラングフォルム・ウィーン、欧州で活躍する注目の歌手陣をはじめ、国内外の一流アーティストによる室内楽やリサイタル、人気のミュージアム・コンサート、ドイツ・バイロイト音楽祭提携による「子どものためのワーグナー」、上野の街を舞台に小さな音楽会を展開する「桜の街の音楽会」も開催いたします。



上野の春の風物詩、東京・春・音楽祭

「東京・春・音楽祭」は、桜咲く上野を舞台に東京の春の訪れを音楽で祝う、国内最大級のクラシック音楽の祭典です。長い冬が終わり、桜前線の知らせが聞こえ始める3月中旬に始まり、街が桜色に染まり、花吹雪から新緑を感じるまでの間、街が華やかに変化するときの躍る心をクラシック音楽で祝いたいと2005年に始めました。

2025年もオペラやオーケストラ、国内外一流アーティストによる室内楽をはじめとする演奏会から、街角で気軽に楽しめる音楽との出会いの場まで、様々な音色で東京の春の訪れを彩ります。

■これまでの延べ公演数	1,918公演
■これまでの延べ入場者数	540,843名
■これまでの延べ演奏者数	18,338名 (2024年：533名)
■2024年公演数	142公演 (有料公演：76、無料公演：66)
■2024年入場者数	45,601名 (有料公演：36,430名、無料公演：9,171名)
■2024年配信視聴者数	14,598名 (有料配信のみ)



「東京・春・音楽祭2025」開催概要

期間：2025年3月14日[金]～4月20日[日]

会場：上野恩賜公園（東京）一帯、東京文化会館、東京藝術大学奏楽堂（大学構内）、
旧東京音楽学校奏楽堂、東京国立博物館、国立科学博物館、東京都美術館、国立西洋美術館、
上野の森美術館 / 他

主催：東京・春・音楽祭実行委員会

共催：公益財団法人東京都歴史文化財団 東京文化会館

後援：文化庁／東京都／台東区（予定）

協力：一般社団法人 上野観光連盟／上野の山文化ゾーン連絡協議会
上野文化の杜新構想実行委員会（予定）

助成：公益社団法人企業メセナ協議会 社会創造アーツファンド

URL：<https://www.tokyo-harusai.com>

「東京・春・音楽祭2025」9つのポイント

- ① 3つのオペラ作品、3つのオーケストラ公演をお届け
- ② ワーグナー&ベートーヴェン 晩年の傑作を名匠ヤノフスキの指揮で堪能
- ③ オペラ、オーケストラ、室内楽など、国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽
- ④ コンテンポラリーな響きをハルサイで
- ⑤ 東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々
- ⑥ 上野公園の美術館・博物館を舞台にした「ミュージアム・コンサート」
- ⑦ 子どもたちがクラシック音楽と出会う場！「東京春祭 for Kids」
- ⑧ 舞台は上野の街中！「桜の街の音楽会」など無料イベント多数開催
- ⑨ 高音質・高画質・自由視点映像でのライブ・ストリーミング配信を実施

1 3つのオペラ作品、3つのオーケストラ公演をお届け

2025年の東京・春・音楽祭で上演するオペラは、《パルジファル》、《蝶々夫人》、《こうもり》の3作品。《パルジファル》は、「ワーグナー・シリーズ」安定のコンビとなってきたマレク・ヤノフスキ指揮/NHK交響楽団で。「プッチーニ・シリーズ」の《蝶々夫人》は、2021年に女性で初めてバイロイト音楽祭の指揮台に立ち、目覚ましい躍進を見せているオクサーナ・リーニフ指揮/読売日本交響楽団でお届けします。閉幕を飾るのは、2025年に生誕200年を迎えるJ. シュトラウス2世の人気作《こうもり》。手兵である東京交響楽団をジョナサン・ノットが指揮します。

2024年9月に開催した「イタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.4 《アッティラ》」の名演も記憶に新しいリッカルド・ムーティは、篤い信頼を寄せている東京春祭オーケストラと《ローマの松》などイタリアの作曲家の作品を集めてお届け。音楽ファン垂涎のプログラムは必聴です。ヤノフスキ&N響は東京オペラシンガーズと共に、ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》も演奏します。「ベンジャミン・ブリテンの世界シリーズ」を終えた加藤昌則は、神奈川フィルハーモニー管弦楽団と石田泰尚を迎えてプロコフィエフを演奏します。

2 ワーグナー&ベートーヴェン 晩年の傑作を名匠ヤノフスキの指揮で堪能

東京春祭の“顔”となってきた「ワーグナー・シリーズ」では、最期の大作《パルジファル》を、マレク・ヤノフスキ指揮/NHK交響楽団が上演します。2025年に86歳を迎えるドイツの名匠ヤノフスキは、「合唱の芸術シリーズ」でベートーヴェンの晩年の傑作《ミサ・ソレムニス》もN響&東京オペラシンガーズと演奏。二人の偉大な作曲家が人生の晩年に生み出した傑作を、マエストロの熟練した手腕のもと、上野で堪能いただけます。

3 オペラ、オーケストラ、室内楽など、 国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽

国内外の一流アーティストが一斉に集う音楽祭として、揺るぎない地位を築いてきた東京・春・音楽祭。世界水準の公演を日本のみならず、アジアや世界の音楽ファンにお届けするため毎年彩り豊かなラインナップをそろえてきました。

2024年の音楽祭で円熟味溢れるベートーヴェン ピアノ・ソナタ全曲演奏会を展開したルドルフ・ブッフビンダーが、来春はシューベルトを3日間にわたってお届け。リサイタルに加えNHK交響楽団のメンバーを迎えた室内楽公演を予定しています。豊かな音色を誇るピアニストのキリル・ゲルシュタインがリサイタルと室内楽の2公演を。バッハの大家として知られるトレヴァー・ピノック率いる紀尾井ホール室内管弦楽団や、金川真弓、マウロ・ペター、クリスティアン・ゲルハーヘルら、最旬の音楽を紹介する公演の数々に、東京春祭でしか聴くことのできないプログラムで春の上野を彩ります。

4 コンテンポラリーな響きをハルサイで

古典からコンテンポラリーまで、幅広い音楽を楽しめるのも東京春祭の魅力の一つ。現代音楽シーンをけん引し続けているクラングフォルム・ウィーンと、アンサンブル・アンテルコンタンポランが上野に集結。ともに、2025年に生誕100年を迎えるピエール・ブーレーズの作品で手腕をふるいます。

クラングフォルム・ウィーンは、ブーレーズに加え、ベリオやJ. シュトラウス2世のプログラムを。類まれな技巧と音楽性で多くの観客を虜にしたアンサンブル・アンテルコンタンポランは、日本初演を含む挑戦的なプログラムで観客を魅了します。

5 東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々

世界で活躍するソリストやオーケストラから選りすぐりの名手が集まり、またとない音楽との出会いの場があるのも東京春祭ならではの魅力のひとつ。バロックから現代の作品まで多彩なテーマ、編成で、音楽の魅力を余すことなくお届けします。

「マラソン・コンサート」や「歌曲シリーズ」、郷古 廉&加藤洋之による「〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ」、「ディスカヴァリー・シリーズ」も聴き逃せません。

6 上野公園の美術館・博物館を舞台にした「ミュージアム・コンサート」

上野公園内に点在する、日本を代表する美術館・博物館の展示室内や講堂で開催される人気のミュージアム・コンサート。2006年からスタートしたこの企画は、美術館や博物館が持つ荘厳な空間で、国内外のアーティストたちが、各特別展や会場の特徴に合わせたコンサートを開催いたします。

人気展覧会とのコラボレーション企画は、その時代を生きた芸術家たちの息吹に触れることができる貴重な機会です。展示室内での公演や、重要文化財である建物内での公演など、文化の集積地上野ならではの特別な空間での鑑賞もお楽しみください。

7 子どもたちがクラシック音楽と出会う場！「東京春祭 for Kids」

未就学のお子様から高校生まで、幅広い年代を対象とした様々なプログラムを提供し、毎年好評の「東京春祭for Kids」。パイロイト音楽祭提携の「子どものためのワーグナー」では《パルジファル》を親しみやすくアレンジしてお届け。同音楽祭の総監督カタリーナ・ワーグナーが監修をつとめます。

また、毎年人気の子どものための絵本と音楽の会や公開リハーサルなど、様々な年齢のお子様を対象にクラシック音楽の魅力をお伝えします。（2025年1月詳細発表予定）

8 舞台は上野の街中！「桜の街の音楽会」など無料イベント多数開催

上野周辺のみならず、オフィス街など都内の様々な場所を舞台に無料のミニ・コンサートを展開している「桜の街の音楽会」。今春は合計25か所で58公演を行い、多くのお客様に音楽をお届けしました。次春も、2月中旬ごろから4月中旬にかけて開催予定。気軽に音楽に触れあえる最高の場を創出します。お出かけの際は、音楽祭公式サイトで開催スケジュールのチェックをお忘れなく！（2025年2月詳細発表予定）

9 高音質・高画質・自由視点映像でのライブ・ストリーミング配信（有料）を実施

会場にご来場いただけない方にも、東京春祭の公演をお楽しみいただけるように始めた「東京・春・音楽祭LIVE Streaming」。これまでに引き続き、高音質・高画質・自由視点映像で実施いたします。ライブ配信ならではの臨場感を、皆さまそれぞれのスタイルでお楽しみください。（2025年2月詳細発表予定/権利関係の都合により配信されない公演もございます。）



■ 3つのオペラ作品と3つのオーケストラ公演

- 16回目となる「ワーグナー・シリーズ」は、本シリーズでお馴染みのドイツの名匠**マレク・ヤノフスキ**指揮**NHK交響楽団**のもと、ワーグナーが遺した最期の大作 舞台神聖祝典劇《パルジファル》を取り上げる。**スチュアート・スケルトン**、**ターニャ・アリアーネ・バウムガルトナー**、**クリスティアン・ゲルハーヘル**、**タレク・ナズミ**といった、世界最高レベルのワーグナーは必聴(東京文化会館 大ホール3/27, 30)。
- 2025年の「合唱の芸術シリーズ」は、**ヤノフスキ**指揮**NHK交響楽団**でベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》を**東京オペラシンガーズ**と共に。ベートーヴェンの晩年の傑作を、世界トップクラスの歌手の歌声と共に堪能いただける。ワーグナーとベートーヴェンという二人の偉大な作曲家が、どちらも人生の晩期に生み出した名作を、2025年に86歳を迎えるマエストロ・ヤノフスキの熟練した手腕のもと上野で堪能いただきたい(東京文化会館 大ホール4/4, 6)。
- 読売日本交響楽団**と共に「プッチーニ・シリーズ」《蝶々夫人》をお届けするのは、ボローニャ歌劇場音楽監督を務める**オクサーナ・リーニフ**。世界の歌劇場を股にかける注目のテノール **ジョシュア・ダレーロ**が、**ラナ・コス**と共に、長崎を舞台にした恋人たちの悲恋を紡ぐ(東京文化会館 大ホール4/10, 13)。
- 9月に開催されたイタリア・オペラ・アカデミー in 東京 vol.4《アッティラ》での熱演も記憶に新しい巨匠**リッカルド・ムーティ**は、オール・イタリア・プログラムを、篤い信頼を寄せる**東京春祭オーケストラ**と上演する(東京文化会館 大ホール4/11, 12)。
- 2025年に生誕200年を迎えるJ. シュトラウス2世の名作《こうもり》もお楽しみいただける。東京春祭でも人気の高い**アドリアン・エレート**が得意のアイゼンシュタインを、**マルクス・アイヒェ**がファルケ博士を歌い、**ジョナサン・ノット**が、10年以上にわたり音楽監督を務めている**東京交響楽団**を率いて、音楽祭の閉幕を華やかに締めくくる(東京文化会館 大ホール4/18, 20)。
- 東京藝術大学奏楽堂では、「ベンジャミン・ブリテンの世界」全5回シリーズを終えた**加藤昌則**が、**神奈川フィルハーモニー管弦楽団** & **石田泰尚**と、今年はプロコフィエフをお届け。作曲家や演奏作品にまつわるお話も交えた公演を予定している(東京藝術大学奏楽堂 4/5)。

■ オペラ、オーケストラ、室内楽など、国内外一流アーティストが奏でるクラシック音楽

- 当代一のベートーヴェン作品のスペシャリストであり、2024年の音楽祭で7日間にわたりベートーヴェンのピアノ・ソナタ全曲を演奏し多くの音楽ファンを魅了した**ルドルフ・ブッフビンダー**が、2025年はシューベルトをお届けする。3日間にわたる公演のうち、1つはソロ公演、2つはNHK交響楽団のメンバーを迎えた室内楽公演を予定(東京文化会館 小ホール4/15, 18, 19)。
 - 世界的アーティストを一堂に楽しめるのも東京春祭ならではの。現在最も人気の高いピアニストの一人**キリル・ゲルシュタイン**(ピアノ)は、カルテット・アマービレとのブラームス室内楽等、意欲的なリサイタル・プログラムで2日間にわたる公演をお届け(東京文化会館小ホール 4/3, 5)。ジョルジュ・エネスク国際コンクールでヴァイオリン部門1位とソナタ賞をダブル受賞したばかりの**金川真弓**(ヴァイオリン)は、**ベン・ゴールドシャイダー**(ホルン)と**ジュゼッペ・グァレーラ**(ピアノ)と共に実力派ならではのプログラムを演奏する(東京文化会館小ホール 3/25)。数々の名手を育てている**アナ・チュマチェンコ**(ヴァイオリン)が、その薫陶を受けた**玉井菜採**(ヴァイオリン)と共に上質な室内楽の公演を(東京文化会館小ホール 4/12)。フォルテピアノやチェンバロ奏者として人気・実力ともに高い**川口成彦**は、日本のピアノ黎明期に作られたミニピアノに加え、トイピアノの演奏も含んだ、異色のプログラムを展開する(旧東京音楽大学奏楽堂 4/19)。
- どれも東京春祭でしか聴くことのできない、特別な演奏会となる。



■幅広い音楽ファンの土壤に

- 現代音楽専門の室内楽アンサンブル **クラングフォルム・ウィーン**が東京春祭に初出演。ウィーンを代表する作曲家J. シュトラウス2世の楽曲を、エレクトロニクスやオルガンの名手としても知られる作曲家ミッテラーが編曲した作品を携え、偉大な作曲家の生誕200年を祝う。2025年1月にウィーンで初演されるプログラムを日本でいち早く堪能できる、特別な2夜をお聴き逃しなく(東京文化会館 小ホール3/26, 28)。
- 2025年に生誕100年を迎えるピエール・ブーレーズが立ち上げた**アンサンブル・アンテルコンタンポラン** (EIC) が、2023年より音楽監督を務める**ピエール・ブルーズ**指揮で登場。東京文化会館 大ホール公演では、EICが最も信頼する合唱団**レ・メタボール**と共に、音楽の新たな可能性を切り開いてきた実力を余すところなく発揮。小ホール公演では、EICメンバーが優れた技巧を惜しみなく披露する(東京文化会館 大ホール4/9, 小ホール4/10)。
- バッハの大家として知られ、チェンバロ奏者としても名実ともに名高い**トレヴァー・ピノック**は、音楽監督を務める**紀尾井ホール室内管弦楽団**と共にブランデンブルク協奏曲 第3番とゴルトベルク変奏曲を演奏(東京文化会館 小ホール3/23)。
- 世界各地のオーケストラで活躍する音楽家が、東京春祭ならではのメンバー構成で演奏するのも音楽祭の魅力の一つ。ベルリン・フィルのメンバーによる室内楽では**アレクサンダー・イヴィッチ** (ヴァイオリン) らが登場し、シューマンのピアノ三重奏曲等で音楽祭の開幕を告げる(東京文化会館 小ホール3/14)。都響メンバーと仲間たちによる公演は、ドヴォルザークの管楽セレナードとモーツァルトの《グラン・パルティータ》をお届け(東京文化会館小ホール 4/4)。名ヴァイオリニスト**堀 正文**のもと、実力派の若手をメインに結成される**東京春祭チェンバー・オーケストラ**は、モーツァルトとストラヴィンスキーを奏でる(東京文化会館 小ホール3/20)。
- 国内外のオペラ界で活躍する日本人歌手たちの公演も。**藤井玲南** (ソプラノ) と**林 眞咲** (メゾ・ソプラノ) (旧東京音楽学校奏楽堂 3/22)、**石井基幾** (テノール) と**平野 和** (バス・バリトン) (旧東京音楽学校奏楽堂 4/5) が、それぞれ歌劇から珠玉のアリアを披露。同声デュオの妙をお楽しみいただける。

■東京春祭ならではの、個性的なシリーズ企画の数々

- 東京春祭オーケストラ コンサートマスターの**長原幸太**を筆頭に、第一線で活躍する音楽家が集う「名手たちによる室内楽の極」(東京文化会館 小ホール4/14)や、**郷古 廉** (ヴァイオリン) & **加藤洋之** (ピアノ) による東京春祭〈Geist und Kunst〉室内楽シリーズ(東京文化会館 小ホール4/2)、没後150年を迎えるビゼーを取り上げるディスカヴァリー・シリーズ(東京文化会館 小ホール4/6)、J. シュトラウス2世にまつわる著書も数多く執筆している、ヨーロッパ文化史研究家 **小宮正安**がナビゲートする「ワルツ王と黄昏のウィーン」と題したマラソン・コンサート(東京文化会館 小ホール4/13)など、今年も聴き逃せない・見逃せないシリーズ企画が並ぶ。1人の作曲家に焦点を当てる公演では、リヒャルト・シュトラウスの室内楽を**水谷 晃** (ヴァイオリン)、**店村眞積** (ヴィオラ)、**加藤陽子** (チェロ)、**加藤洋之** (ピアノ) がお届け(旧東京音楽学校奏楽堂 3/15)。
- 新企画のシリーズも2つ登場。1つめは、演出家の**田口道子**が企画構成を務め、名作を深掘りする「東京春祭〈よく解る〉シリーズ」。vol.1は《蝶々夫人》を日本人歌手たちの演奏と共に紐解いていく(東京文化会館 小ホール4/4)。カウンターテナーの**藤木大地**は、大切に歌い継いできたにほんの歌をテーマにした、2年にわたるシリーズをスタートさせる(東京文化会館 小ホール3/15)。
- 通算40回以上の開催となる「歌曲シリーズ」では、世界各地のオペラハウスで活躍しながら、豊かなリートのレパートリーを誇る実力派テノール歌手**マウロ・ペーター**がシューベルト《美しき水車屋の娘》を(東京文化会館 小ホール3/18)。2夜にわたりシューマンの作品をお届けするのは、《パルジファル》に出演する名歌手**クリスティアン・ゲルハーヘル** (バリトン) と**ゲロルド・フーバー** (ピアノ) の名コンビ(東京文化会館 小ホール3/19, 22)。《ミサ・ソレムニス》で美声を披露する**アドリアナ・ゴンザレス** (ソプラノ) の公演にも注目したい(東京文化会館 小ホール4/8)。

■上野公園の美術館・博物館を舞台にした 「ミュージアム・コンサート」

国立科学博物館では、恒例のNHK交響楽団のメンバーによる室内楽など、合計5公演を予定。

J. S. バッハの作品を中心にしたシリーズを展開している東京国立博物館では、**鈴木大介**が無伴奏ヴァイオリンのソナタ&パルティータをギターで、**辻本 玲**（チェロ）が無伴奏チェロ組曲を、それぞれ2晩にわたり全曲演奏。ほかにも、自身が編曲したラフマニノフを昨春に演奏した**イノン・バルナタン**（ピアノ）や、**辻 彩奈**（ヴァイオリン）が出演。合計6公演を予定しています（辻本 玲さんと辻彩奈さんの辻は一点しんにょう）。

VOCA展と毎年コラボレーションしている上野の森美術館では、**コハーン**（クラリネット）と**中村翔太郎**（ヴァイオリン）が現代美術作品の前で演奏する。

音楽祭の期間中、東京都美術館では「ミロ展」が、国立西洋美術館では「西洋絵画、どこから見るか？」展が開催。それぞれの展覧会を記念し、展示テーマに沿ったコンサートを実施する。



■子どもたちがクラシック音楽と出会う場！ 「東京春祭 for Kids」

バイロイト音楽祭提携の「子どものためのワーグナー」では、同音楽祭の総監督**カタリーナ・ワーグナー**を監修に迎え、《パルジファル》を親しみやすくアレンジしてお届け。

毎年人気の**子どものための絵本と音楽の会**を実施するほか、東京文化会館 大ホールでのオペラやオーケストラ公演の**公開リハーサル**も実施予定です。（2025年1月詳細発表予定）



公演詳細は決定次第
公式サイト(www.tokyo-harusai.com)にて順次発表

【公演に関する注意事項】

やむを得ぬ事情により出演者や曲目等が変更になる場合がございます。予めご了承ください。

資料に関するお問い合わせ、取材依頼、画像貸出依頼は事務局までご連絡ください。

東京・春・音楽祭実行委員会 広報担当

TEL (03) 5205-6401 FAX (03) 5205-6403 E-mail press@tokyo-harusai.com

2024年11月24日[日]10:00より 順次一般発売開始

- 2024年11月24日[日]10:00 東京文化会館 大ホールで開催する5公演
- 2024年12月15日[日]10:00 東京文化会館 小ホール／東京藝術大学奏楽堂／旧東京音楽学校奏楽堂／他で開催する全30公演
- 2025年1月26日[日]10:00 ミュージアム・コンサート／東京春祭 for Kids子どものためのワーグナー／他
- 2025年2月14日[金]12:00 U-25／U-25スペシャル★
- 2025年2月21日[金]12:00 ネット席(ライブ・ストリーミング配信チケット)

東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービスでは
バラエティに富んだ購入プランをご用意しています。
ご自身の鑑賞スタイルに合ったものをお選びください。

トリオ・チケット

3枚同時購入で5%OFF！

対象となる公演を、同日1公演につき同席種で3枚同時にご購入の場合、チケット代金が定価より5%OFFになる「トリオ・チケット」。
ご家族皆様で、もしくはご友人とそろってのご来場に是非ご活用ください。

※東京文化会館大ホール公演はS・A・B席のみ対象。

東京・春・音楽祭2025公式プログラム付チケット

公式プログラムをネットで予約、会場で受取

東京・春・音楽祭2025全公演を網羅し、「これ一冊で東京春祭を100倍楽しめる」と人気の公式プログラム（約300ページ／1部1,200円）を、チケットと同時に事前予約購入できます！

U-25スペシャル★

東京文化会館の平日公演をお得に楽しめる！

2024年に実施し好評をいただいた「U-25 スペシャル★」（18,000円）を今回も販売いたします。サブスク感覚の「通い放題チケット」で2025年の東京・春・音楽祭を満喫してください！

東京文化会館大ホール&小ホールで、平日に開催される公演が鑑賞可能です。

一般発売に先駆け、
東京・春・音楽祭オンライン・チケットサービスにて
先行発売を実施いたします



座席選択可能／先行期間中の購入は
チケット発券手数料無料

① 演奏会形式のオペラや、ムーティ指揮東京春祭オーケストラのチケットの最速先行予約

東京文化会館 大ホール5公演 S・A・B席限定
【受付期間】11月10日[日]10:00～13日[水]23:59

【対象公演】 東京春祭ワーグナー・シリーズ vol.16 《パルジファル》（演奏会形式）
東京春祭 合唱の芸術シリーズ vol.12 ベートーヴェン《ミサ・ソレムニス》
東京春祭プッチーニ・シリーズ vol.6 《蝶々夫人》（演奏会形式）
リッカルド・ムーティ指揮 東京春祭オーケストラ
《こうもり》（演奏会形式）

② 期間限定販売の特別なセット券

各種セット券

【受付期間】12月1日[日]10:00～4日[水]23:59

【対象公演】 A: 歌曲シリーズ 4公演セット券
B: 歌曲シリーズvol.42&43クリスティアン・ゲルハーヘル&ゲロルト・フーバー
2公演セット券
C: クラングフォルム・ウィーン 2公演セット券
D: キリル・ゲルシュタインの世界 2公演セット券
E: ルドルフ・ブッフビンダー シューベルトの世界 3公演セット券
F: アンサンブル・アンテルコンタンポラン 2公演セット券

③ 東京文化会館 小ホールと旧東京音楽大学奏楽堂公演のラインナップから、
好きな3公演を自由にセレクト

Myセレクト3

【受付期間】12月8日[日]10:00～11日[水]23:59

【対象公演】12月15日に一般発売する公演の中からお好みの3公演を組み合わせ、ご予約いただけます。
※4月9日「アンサンブル・アンテルコンタンポラン」（東京文化会館 大ホール）も対象。
※4月5日「ザ・プロコフィエフ」（藝大奏楽堂）は対象外です。
※東京文化会館小ホール公演については12月15日に一般発売する公演に限ります。

お問合せ

東京・春・音楽祭サポートデスク 050-3496-0202

【営業時間：月曜、水曜、金曜、チケット発売日10:00～15:00】

※11月6日[水] 10:00 開設

上野恩賜公園

1873（明治6）年の太政官布達により、芝、飛鳥山等と共に日本で初めての公園として開園。江戸時代は、東叡山寛永寺の境内地であったが、1924（大正13）年に宮内省を経て、東京市に下賜された。当初は寛永寺社殿、東照宮それに境内の桜を中心とした公園であったが、その後、博物館、動物園、美術館等が建てられ、文化の香り高い公園へと衣替えた。2023年に開園150周年を迎えた。



旧東京音楽学校奏楽堂

東京藝術大学音楽学部の前身、東京音楽学校の校舎として、1890（明治23）年に建築され、日本における音楽教育の中心的な役割を担ってきた。2階の日本最古の洋式音楽ホールは、かつて瀧廉太郎、山田耕筰、三浦環らが演奏をした由緒ある舞台。1983（昭和58）年に台東区が譲り受け、移築後、一般公開を開始、1988（昭和63）年には重要文化財の指定を受けている。2018（平成30）年11月にリニューアルオープン。

東京藝術大学奏楽堂(大学構内)

1998（平成10）年、移設された旧奏楽堂の跡地に、コンサートホールとして新しく建設。ホール全体が一つの優れた楽器として考えられ、多様な使用目的に対応した音響空間になっている。フランスのガルニエ社製オルガンが設置され、学内外の音楽家によるオーケストラ、オペラ、合唱、邦楽、室内楽等が催されている。

東京国立博物館

1872（明治5）年創立、日本で最も長い歴史を持つ博物館として日本を中心に広く東洋諸地域の文化財を収集・保管・展示しています。

所蔵品の数は12万件を超え、本館、東洋館、平成館、法隆寺宝物館、表慶館、黒田記念館の6つの展示館があります。

季節や年中行事に合わせた催し、教育普及事業なども行っており、多岐にわたる事業を通して世界中の人々に愛されています。

東京都美術館

1926（大正15）年、日本初の公立美術館として開館。国内外の名品を楽しめる特別展や企画展、公募展など、多くの展覧会を開催するほか、アート・コミュニケーション事業など、「アートへの入口」としてさまざまな事業を展開し、「心のゆたかさの拠り所」となる美術館を目指している。

国立西洋美術館

1959（昭和34）年6月、フランス政府から寄贈返還された松方コレクションを基に、ル・コルビュジエの設計により開館。中世末期から20世紀半ばまでの作品による常設展に加え、企画展も充実の国立美術館。2016（平成28）年7月、国立西洋美術館を含む「ル・コルビュジエの建築作品ー近代建築運動への顕著な貢献ー」が、世界遺産に登録された。

国立科学博物館

1877（明治10）年創立、日本最大級の総合科学博物館です。常設展示では「人類と自然の共存をめざして」をメインメッセージとし、恐竜の化石や大型動物の剥製など自然史の標本や、日本の科学技術に関する資料などを幅広く展示しています。

日本館は国指定重要文化財であり、ネオルネサンス様式を基調とした重厚な建物や、柔らかな光が差し込むステンドグラスも見どころです。

上野の森美術館

上野公園内にある私立の美術館で、日本美術協会の美術展示館を設備し、1972（昭和47）年に開館。以来、所蔵品の公開のほか、「VOCA展」をはじめ、話題となる展覧会を開催している。

東京文化会館

1961（昭和36）年4月の開館以来、数多くのオペラ、バレエ、クラシックコンサートが行われてきた。建物は前川國男設計による代表的なモダニズム建築であり、「音楽の殿堂」として親しまれている。

